

昔の賑わいをそのままに 化蘇沼稻荷の祭礼

子ども達で作った，案内のパンフレットから紹介します。

とても身近なお祭りで，毎年夏休みの終わり頃に，誰もが訪れる伝統ある行事です。



<なめがた郷土かるた より>



化蘇沼稻荷神社について

化蘇沼稻荷神社は，文明10年（1478年）に，武運長久の守護神として創建されました。現在でも，五穀豊穰，家内安全等について武田全域の鎮守として崇敬されています。別名「関取稻荷」とも呼ばれていて，毎年8月25日の例大祭には，豊作を祈願する「奉納相撲」が行われます。さらには，祭の当番地区の女の子による「巫女舞」も奉納され，雅楽の調べに乗せて古式ゆかしい舞が披露されます。当日は多くの参拝者があり，奉納行事の他に歌謡ショー，出店などで賑わいを深めています。



いくつかの句碑が建てられています。その中に芭蕉の句碑が2基あります。

「この道や ゆく人なしに 秋のくれ」

「永き日も 轉りたらぬ ひばり哉」

また，小林一茶がこの地を訪れた記録も残っています。



祭礼について

武田地区の神社ということで、小学校3校が合同で行事に参加します。行方市立武田小学校・小貫小学校・三和小学校です。

運営の当番は、7地区が回り番で担います。「巫女舞い」については、当日に向けて大変な準備と練習が行われます。昨年22年度が、本校の当番で立派な舞いを披露できました。とても緊張したようですが、凛々しい立ち振る舞いはとても立派でした。写真でご覧いただきます。



「奉納相撲」の方は、男子が受け持ちます。小学校3年生の部から、大人一般の部まであって力と技を競います。その昔には、本物の力士が来たそうです。現在も本格的な土俵を準備をするなど、相撲の保存会なども熱心です。行司・呼び出しも本格的で、とても楽しめます。子ども達は、3日ほどの練習を行い、地域の人達に気合いを入れられます。禪を締めて力一杯ぶつかり合う機会は現在貴重だと思います。



今年もいろいろな収穫を得て、たくましく成長しています。励まし続けてくれた家族や地域の人との絆が深まり、感謝の気持ちも強くなったことでしょう。